
幸福な休日

汐路 凜

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

幸福な休日

【Nコード】

N5144D

【作者名】

汐路 凜

【あらすじ】

幸福はきっと、穏やかなところが紡ぎだす、ささいな瞬間の積み重ね。

扉を開けてベランダへ出ると、くたびれた雑巾みたいな色の空が一面に広がっていた。

凜、と冴えた冬の空気と雨の匂い。

私はベンチに座って煙草に火を点け、深々と煙を吐きだした。どんなよりとした空からそのまま視線を下へ辿る。

傘をさしながら買い物袋を抱えて歩く主婦、憂鬱そうにバス停に佇むサラリーマン、信号待ちの車の列……。

日曜でも街は動いているんだな、そんなことをぼんやりと考えながら、前夜の錯乱した自分を思い返す。

思い通りにいかない恋愛。

ふいに痛み出した左足。

まるで今日の空みたいに見えなかった未来。

ゆらゆらとさざ波のように揺れていた不安は、やがて高波のように押し寄せ、ついに防波堤を崩してしまった。

癪癪を起こして物を投げるとか、お酒を呑んで酔い潰れるとかする代わりに、私はノートを広げて、どろどろの感情を思うままに書きなぐった。

結局、そのままふて腐れて、いつの間にか眠ってしまっていた。

バスが発車する音が下界から聞こえてくる。

私はフィルターぎりぎりまで吸っていた煙草を消してリビングへ

戻った。

今日は日曜日。

家族はまだ起きてこない。母とふたり、テーブルを囲んでのんびりと遅めの朝食を摂る。

バターをのせたきつね色のトースト。煎れたてのコーヒーの匂いが鼻孔をくすぐった。

こんな何気ないひとときこそが、幸福だと実感する。

たとえまたすぐ不安の波が押し寄せるとしても。

なんてことない。

私は幸福なのだから。

（後書き）

批評・感想頂ければ幸いですm
——
m

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5144d/>

幸福な休日

2011年1月27日02時21分発行